

1. 授業の概要

1-1 カリキュラムの概要

教育実践高度化専攻は通常の学校の教員を目指すストレートマスターと通常の学校の現職教員を対象としており、特別支援教区に関する知識がほとんどない院生が在籍している。

本レポートでは教職大学院における特別支援教育に関する授業の改善を報告する。

教職大学院のカリキュラムにおける特別支援教育に関する授業科目の内、専攻必修科目「特別支援教育の理論と実践」、コース別科目「特別な教育的ニーズへの対応」について、検討する。コース別科目は教育実践開発コース（学部卒業者）で開講している。

1-2 授業概要

○特別支援教育の理論と実践（表 1）

特別支援教育の概要、各障害の特性の紹介と支援・指導方法、実習校等で気になる児童生徒に関するケースレポート、特別支援学校の見学（2校）

○特別な教育的ニーズへの対応（表 2）

個別の教育支援計画・個別の指導計画の概要と活用方法、通常の学校における学習上のつまづきへの対応、支援を要する児童生徒がいる学級での学習指導案立案・検討

表 1 「特別支援教育の理論と実践」の内容

内容	方法
特別支援教育の動向、インクルーシブ教育システムの構築	講義
各障害の理解	講義と反転授業
個別の教育支援計画と個別の指導計画	講義
合理的配慮を含んだケース検討	グループディスカッション
インクルーシブ教育システム時代の健康教育	講義、ゲストティーチャー
特別支援学校見学	学外授業、レポート

表 2 「特別な教育的ニーズへの対応」の内容

内容	方法
特別な教育的ニーズとインクルーシブ教育の理念	講義、ディスカッション
個別の教育支援計画、個別の指導計画の理解	講義
読み書き困難、算数・数学困難への支援	講義、演習
自己理解を促す支援	講義、演習、ディスカッション
コミュニケーション・ソーシャルスキルの課題への対応	
特別な教育的ニーズに対応する学習指導計画立案	模擬授業、ディスカッション
キャリア発達と学齢期の課題	学外授業、レポート
附属特別支援学校研究大会への参加	

2. 授業評価

2-1 受講生対象のアンケート

2017年及び2019年の2月にアンケート調査を実施した。受講生の成績に一切影響させず、授業に対する自由な回答を保障するため、最終試験終了後に配布、無記名とし、紙媒体で研究室ドアに設けた回収袋への提出とした。

2017年は受講生19名中16名が回答し、回収率84.2%、「特別支援教育の理論と実際」の回答者は16名、「特別な教育的ニーズへの対応」の回答者は11名であった。2019年は受講生17名中14名が回答し、回収率は82.4%、「特別支援教育の理論と実際」の回答者は16名、「特別な教育的ニーズへの対応」

の回答者は9名であった。

3. アンケート結果と考察

＜特別支援教育の理論と実践＞

表3に「特別支援教育の理論と実践」の学習内容に対して、教員として働く時に役立つと考える項目を、表4に役立つと考える理由を年度別に示した。増加が大きかった項目を赤字で示した。最も役に立つとされたのは、「合理的配慮の概念、事例」であり、理由として知識として必要が高くなっていることから、学校内で合理的配慮の必要性が認知され、現場で役立てたいという意識が高まっていることを示していると考えられる。次いで、「各障害に関する調べ学習」が高く、「内容が具体的」で「グループワーク」により内容を深めることができていることが伺える。また、論文購読の回答が大幅に上がっており、役に立つとされており、その理由として「知識として役立つ」「内容が具体的」「配布資料」などが挙げられていた。通常の学級を対象とした研究論文を多く取り入れたことで、実感をもって読むことができた結果と思われる。「合理的配慮の概念、事例」に対する関心の高さに比べ、「仮想ケースの事例検討」「実習もしくは指導経験による事例発表」は「役に立つ」が半数程度で、理由として「子どもの見方がわかる」「内容が具体的」が低くなっており、知り得た知識を実際にどのように生かしていくか、事例検討の方法や指導・支援の改善に結びつけられていないことが推測される。

表5にもう少し詳しく知りたい、学びたいと考える項目を示した。「インクルーシブ教育システムの概念」「合理的配慮の概念、事例」が多く、関心の高さに応えきれていないとは言えない。また、「個別の教育支援計画と個別の指導計画」は紹介するにとどまっており、合理的配慮や指導・支援と関連付けていく必要がある。

＜特別な教育的ニーズへの対応＞

表6に「特別な教育的ニーズへの対応」の学習に内容に対して、教員として働くときに役立つと考える項目を、表7にそう考える理由を、表8にもう少し詳しく知りたい、学びたいと考える項目を示した。「特別支援教育、インクルーシブ教育システムの概念」「読み書き困難への支援」「算数・数学困難への支援」の3項目については、2018年度は全員が役に立つと考えており、詳しく学びたい者の割合は低かったことから、十分な内容であったと考えられる。一方で、「自己理解を促す支援」「コミュニケーションの課題への対応」「ソーシャルスキルの課題への対応」は役に立つと考える者が半数程度で、「もう少し詳しく知りたい、学びたい」は低い割合であった。学習に関する具体的な困難さへの対応と、見えにくい困難さで回答が分かれていることから、見えにくい困難さが子どもたちの将来にどのような影響を与えるかを伝えていく必要があることが示唆された。

4. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

現在、通常の学級に在籍する「気になる」児童生徒は約6.5%といわれているが、県内の巡回相談等では、実際には10%を超えているという実感をもつと話す教員がほとんどである。インクルーシブ教育システムの普及により、学び方が異なる子どもたちが通常の学級にさらに混在することが見込まれる。こうした学校や地域の実情に変化に応じ、教職大学院生の地域連携実習1・2での授業実践を充実させるために、学校や地域の実情に応じた学びにくさのある児童生徒への理解が進み、理論と実践が結びつくような授業展開を目指していきたい。また、授業のユニバーサルデザインやアクティブラーニングの視点を活用することで学び方の多様性に対応する力を育てていきたい。

表 3 「特別支援教育の理論と実践」: 教員として働く時に役立つと考える項目(複数回答)(%)

	2016 年度	2018 年度
特別支援教育の概念	75	75
知的障害特別支援学校の教育課程	50	50
自立活動、教科領域を合わせた指導	50	56.3
特別支援学校の見学	75	68.8
ゲストティーチャーによる講義	43.8	56.3
インクルーシブ教育システムの概念	75	62.5
合理的配慮の概念、事例	92.9	92.9
各障害に関する調べ学習	78.6	78.6
仮想ケースの事例検討	64.3	57.1
実習もしくは指導経験による事例発表	50	42.9
論文購読	35.7	64.3
個別の教育支援計画と個別の指導計画	71.4	64.3

表 4 「特別支援教育の理論と実践」: 教員として働く時に役立つと考える主な理由(複数回答)(%)

		知識とし て必要	子どもの見 方がわかる	内容が 具体的	グループ ワーク	配布資 料	現職教員・ス トレートマスタ ーとの交流
特別支援教育の 概念	2016 年度	100.0	33.3	0.0	0.0	25.0	0.0
	2018 年度	83.3	41.7	8.3	0.0	25.0	8.3
知的障害特別支援 学校の教育課程	2016 年度	100.0	12.5	37.5	12.5	37.5	12.5
	2018 年度	75.0	12.5	37.5	0.0	25.0	0.0
自立活動、教科領 域を合わせた指導	2016 年度	50.0	37.5	37.5	37.5	25.0	12.5
	2018 年度	77.8	88.9	33.3	0.0	0.0	0.0
特別支援学校の 見学	2016 年度	25.0	75.0	66.7	0.0	8.3	8.3
	2018 年度	18.2	90.9	45.5	0.0	9.1	9.1
ゲストティーチャー による講義	2016 年度	28.6	57.1	42.9	0.0	28.6	0.0
	2018 年度	22.2	55.6	77.8	11.1	44.4	0.0
インクルーシブ教 育システムの概念	2016 年度	91.7	25.0	16.7	0.0	41.7	0.0
	2018 年度	100.0	50.0	20.0	0.0	10.0	0.0
合理的配慮の 概念、事例	2016 年度	46.2	61.5	61.5	15.4	30.8	15.4
	2018 年度	84.6	61.5	46.2	23.1	15.4	7.7
各障害に関する調 べ学習	2016 年度	81.8	45.5	18.2	18.2	18.2	45.5
	2018 年度	54.5	36.4	45.5	63.6	9.1	36.4
仮想ケースの事例 検討	2016 年度	37.5	62.5	75.0	25.0	12.5	25.0
	2018 年度	22.2	33.3	44.4	33.3	22.2	66.7
実習もしくは指導経 験による事例発表	2016 年度	14.3	71.4	85.7	14.3	42.9	57.1
	2018 年度	0.0	33.3	66.7	33.3	16.7	66.7
論文購読	2016 年度	100.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	2018 年度	33.3	11.1	33.3	0.0	33.3	0.0

表 5 「特別支援教育の理論と実践」: もう少し詳しく知りたい、学びたいと考える項目(%)

	2016 年度	2018 年度
特別支援教育の概念	25	21.4
知的障害特別支援学校の教育課程	6.3	0
自立活動、教科領域を合わせた指導	25	28.6
特別支援学校の見学	18.8	7.1
ゲストティーチャーによる講義	12.5	28.6
インクルーシブ教育システムの概念	37.5	57.1
合理的配慮の概念、事例	50	50
各障害に関する調べ学習	0	7.1
仮想ケースの事例検討	25	14.3
連携校実習もしくは指導経験による事例発表	18.8	21.4
論文購読	0	14.3
個別の教育支援計画と個別の指導計画	0	35.7

表 6 「特別な教育的ニーズへの対応」: 教員として働く時に役立つと考える項目 (%)

	2016 年度	2018 年度
特別支援教育、インクルーシブ教育システムの概念	81.8	100
個別の教育支援計画、個別の指導計画の理解	63.6	77.8
附属特別支援学校研究大会への参加	72.7	66.7
事例に関する授業計画作成及び検討	63.6	55.6
文献購読	54.5	33.3
読み書き困難への支援	81.8	100
算数・数学困難への支援	63.6	100
自己理解を促す支援	81.8	66.7
コミュニケーションの課題への対応	90.9	77.8
ソーシャルスキルの課題への対応	90.9	55.6

表 7 「特別な教育的ニーズへの対応」: 教員として働く時に役立つと考える理由(複数回答) (%)

		知識として必要	子どもの見方がわかる	内容が具体的	グループワーク	配布資料
特別支援教育、インクルーシブ教育システムの概念	2016 年度	81.8	9.1	0.0	0.0	9.1
	2018 年度	100.0	33.3	11.1	0.0	33.3
個別の教育支援計画、個別の指導計画の理解	2016 年度	45.5	9.1	27.3	0.0	9.1
	2018 年度	66.7	33.3	55.6	22.2	0.0
附属特別支援学校研究大会への参加	2016 年度	18.2	27.3	54.5	0.0	18.2
	2018 年度	22.2	33.3	44.4	0.0	33.3
事例に関する授業計画作成及び検討	2016 年度	18.2	27.3	45.5	36.4	9.1
	2018 年度	22.2	22.2	22.2	66.7	0.0
文献購読	2016 年度	36.4	0.0	9.1	0.0	0.0
	2018 年度	44.4	0.0	0.0	0.0	22.2
読み書き困難への支援	2016 年度	18.2	72.7	18.2	9.1	0.0
	2018 年度	88.9	77.8	44.4	22.2	22.2
算数・数学困難への支援	2016 年度	9.1	63.6	18.2	9.1	0.0
	2018 年度	88.9	77.8	33.3	33.3	22.2
自己理解を促す支援	2016 年度	9.1	63.6	18.2	9.1	0.0
	2018 年度	44.4	66.7	22.2	11.1	11.1
コミュニケーションの課題への対応	2016 年度	18.2	72.7	27.3	0.0	0.0

表 8 「特別な教育的ニーズへの対応」: もう少し詳しく知りたい、学びたいと考える項目 (%)

	2016 年度	2018 年度
特別支援教育、インクルーシブ教育システムの概念	27.3	22.2
個別の教育支援計画、個別の指導計画の理解	18.2	22.2
附属特別支援学校研究大会への参加	27.3	22.2
事例に関する授業計画作成及び検討	18.2	11.1
文献購読	18.2	22.2
読み書き困難への支援	54.5	33.3
算数・数学困難への支援	27.3	44.4
自己理解を促す支援	54.5	33.3
コミュニケーションの課題への対応	72.7	22.2
ソーシャルスキルの課題への対応	63.6	11.1